

第3回小委員会での主な意見と対応方針

- 防災減災都市づくり，空き家，伝統文化等を継承できる都市づくり，耕作放棄地などの懸念事項がある。総合的な取組を庁内横断的に対応いただきたい。
 - 市としても問題点を認識しており対策をとっていきたいと考える。自治会や地域づくり協議会と共に議論していきます。

- 鈴鹿亀山道路の事業化について報道発表され，道路計画がはっきりしてきた，都市マスにおいても拠点の考え方などに影響があるのでは。
 - 鈴鹿亀山道路の事業化について，関係部局と情報共有し検討を進めます。

- 企業立地について，基幹産業だけで進めていくのではなく新しい産業について誘致をどんどん進めるべき。
 - 産業構造が変革期を迎えており基幹産業だけでなく新たな企業の誘致も含めて，産業部局や商工会議所と協議を重ねていきます。

- 若い方の意見集約について高校生や大学生の意見を聴くために少人数からワークショップ等を始めて，そこから大きくしていったらどうか。
 - 若い世からの意見集約は，重要であると考え，若い世代と共に考えていける手法を準備していきます。意見集約においてより活発な意見が出るよう建築士会の協力を仰ぎたいと思います。

- 検討項目が多岐にわたり時間や人員が限られている中すべてを検討する事は難しいのでは。庁内調整は定例的なものがあるのか。関係団体意見交換や市民意向の把握の具体的なスケジュールは決まっているのか。
 - 検討項目において取捨選択をし，3本の柱を中心に注力し意見交換等を行います。庁内調整は，既存の庁内検討会議の組織を活用し情報共有しながら庁内調整を図ります。限りある時間を有効に使うよう準備を進め最大限の結果が得られればと考えています。

- 方針は良くまとまっている。都市マスタープランで大事なものは，土地利用計画や都市施設整備の計画である。鈴鹿らしい都市構造があるはずなので，個別の土地や地域に関する検討を先に行いその上で全体の都市構造を考えると良い。そこに気候変動における問題やウォークブルなどを入れ込めると良い。土地利用計画を作成するときに俯瞰的に見てコンパクトシティというのではなく，個別の土地利用や地域の方から発想していく事を重視してほしい。
 - いただいた意見を踏まえ検討を進めます。

第50回都市計画審議会での主な意見と対応方針

- 市民意向の把握において子育て世代との意見交換の事務局の説明では、浸水予想区域について転入前に調べたとの意見が多くあったことの説明がされておらず、こういった意見を審議会で共有しないと議論ができないのではないかと。
 - 市民意向の把握においては、頂いた意見を議事録として残していますが、本審議会において時間も限られる中、委員指摘の部分の説明できず申し訳ございません。今後、市民意向の把握で頂いた意見について小委員会で議論いただこうと思います。

- 学生の意見交換、第1回市民ワークショップを傍聴したが、今回で終わりにするのではなく、第1回市民ワークショップの女性参加者が非常に良かったと感想を言っていたので、継続して市民参画を行ってほしい。今後20年を考えると若い世代の意見聴取に力を入れて取り組んでほしい。
 - 市民協働のまちづくりの観点からも今後も取組を継続していかなければならないと思っており、できる範囲の取り組みを行っていきます。

- 白子地区について都市マスタープランでは、高度利用を図る、都市機能の集積を図るとの記載があるが、現実には、高層マンションが建ち、平屋の店舗、有料駐車場、空き地といった土地利用である。実現できないものを記載し続けるのはいかなものか、検証を十分に行うべき。行政が動かなければ土地利用の誘導を図ることはできない。
 - 白子地区については、土地行政を進めてきた中で住宅の高度利用は進んでいるが、生活便利施設等の高度集積は進んでいないことを認識しています。人口減少社会の中、土地利用についても高度利用から土地を平面的でも有効利用する等、時代にあった土地利用について都市マスタープランに記載していければと思います。

- 市民意向の把握において地域づくり協議会との意見交換をするべきである。検討項目の中に地域計画の吸い上げを行うとの記載があるが、都市マスタープランに使えるものもあれば使えないものもあり、ばらつきがあるので地域づくり協議会と意見交換を行いそれぞれの街にふさわしいまちづくりを進めていくべきである。
 - 地域づくり協議会と協働してまちづくりをしていきたいと思っておりますが、総合計画の改定作業においてもまちづくりについて地域づくり協議会との意見交換を行っており、総合政策課と情報共有を図ります。それとは別に、ハザードエリアにある海沿いの地域づくり協議会、地域拠点について西部地域の地域づ

くり協議会と目的をもって意見交換を行います。

- 立地適正化計画の策定についての考え方を都市マスにも位置付けてはどうか。また、都市施設において実現性が無い都市計画道路等についても都市マス改定時に見直してはどうか。
 - 国が定めたコンパクトなまちづくりを実行していくための計画が立地適正化計画であり、ライフサイクルコストを考えていくと人口減少の中まちを縮小していく必要があり立地適正化計画の策定が求められています。コンパクトなまちづくりにおいて行政が一方的に行うのではなく地域の方と協働してどのようなまちづくりがいいのか議論して策定していかなければならないと思っています。議論してまとまれば策定していきたいと考えていますが、まだ、議論の途中であることを理解いただきたいです。
都市計画道路の見直しについて、数年前に国から見直し基準が公表され鈴鹿市においても一度見直しをしたところです。今回の都市マスタープラン改定においては時間的にも見直しを行うことはできませんが、今後必要であれば見直しを検討したいと思えます。
- 今回の資料において新しい用語が多く使用されている。都市マスタープランは市民が見て、理解し、指針となり、自分たちの街を考えるものなので、もう少し柔らかく、用語解説も加えて親しみやすい文書にすることが必要。
 - 分かりやすい言葉を使用し、また、注釈・用語解説をつけるなど対応します。
- コンパクトシティの考え方について駅周辺にコンパクトに住むことだけがコンパクトシティなのか。無下に誘導すると農村部・山間部において耕作放棄地を増やしかねない。
 - すぐに市街化区域に集めるという考えではなく、段階的に行っていくものであると考えます。生活様式が変化し核家族化が進んでいるなか親世代と同居する方が減っており、子供世代が先祖代々の土地に住み続けるのではなく新たな土地に居宅を構え住んでいる。若者が新たに土地を購入し新築する際にはハザードエリアにかからないところ、生活利便施設が整ったところを選ぶ傾向があり、長い年月をかけ民意によってコンパクトなまちになっていく。既存集落において、今すぐ皆が流れ出るわけではなく、既存集落で生活し続けたい方もみえると思えます。既存集落内でコンパクトを目指していただき、コンパクトプラスネットワークでコンパクトなまちをつないでいくことを目指します。また、土地の管理においても人がいなくなってしまうと管理をしてもらえなくなってしまうので、持続可能な土地利用について皆さんと協働してまちづくりを考えていきます。都市マスタープランは、将来を見越した記載をしていきます。鈴鹿市にコンパクトシティの考え方がなじまない部分もあるが、調整区域

は調整区域で日常生活を維持する拠点づくりについて考えていく事がコンパクトシティにとって大切であり、居住誘導を図ることを先行していくのではないです。時代に応じて都市計画を運用していく必要があると思います。

第 50 回鈴鹿市都市計画審議会事項に関する意見と措置

第 50 回鈴鹿市都市計画審議会、鈴鹿市都市マスタープラン改定業務進捗報告において委員から提出のあった意見とそれに対する措置について。

意見

1. 「2 検討項目の方策及び検討方針」について

(1) 主題1と主題2に関して、これらを検討するにあたって、現プランでは公共交通に関して、駅やバス停などを起点とした図のみが取り扱われているが、コンパクトに住まうこと高齢者の増加に伴うニーズを考慮すると、食料品などを手に入れることができる商店などを起点として半径で表示するマップや、医療機関も同様のマップを作成して、今後の検討に取り組んではどうか。それらを、高齢者福祉で重要な地域包括支援センターの区割りと重なるなどの工夫が必要と考えます。

(2) 主題2において「高質」という表現があるのですが、あまり聞きなれない表現であることと、同じ感じで読み方を「こうじち」とすると「中世社会の貸借関係において、債権者が債務者の債務不履行の際、その動産を私的に差し押さえる行為を高質をとるといふ。」こともあるので、表現を再考するべきと考えます。

(3) 「Ⅱ-3」について、地区別景観計画などを考えると、行政の積極的な関わりも必要かと考えますが、その点の考えはどうなっているか。

(4) 主題3について、今後の検討体制はどうなっているのでしょうか。デジタルシフトを想定すると、Wi-Fi 環境の整備などもあると思いますが。

(5) 主題4の「Ⅳ-1」について、e-BIKE（電動自転車）の活用を前面に出してはどうでしょうか。それらが安全に走ることのできる道路など、既存の道路の機能を整理して考えることも必要と考えます。

(6) 「Ⅳ-3」について、省エネルギーの視点を入れてはどうでしょうか。いずれタワマン的な利用については、エネルギー使用の観点から課題になるように考えます。

(7) 主題5について、「Ⅴ-1」の内容からは、現在の西部地域の潜在的な可能性が読み取れないため、明確に西部地域のことを記述すべきと考えます。

スポーツを通じた関係人口増に関わるエリアとしての、スポーツレクリエーションゾ

ーンが入っていないことは、さらに市の取り組みを遅くすると懸念しますし、将来的な災害リスクを勘案しても西部地域の位置づけを検討することは必須と考えます。また、新名神に接続する交通網の可能性を考えても、明確に記述しておくべきと考えます。

(8) 「V-2」について、「自動車産業のEV革命に対応した地域産業の再構築の基盤づくり」について、「第4次産業革命に対応した地域産業の再構築の基盤づくり」とすべきではないでしょうか。自動車に偏重した考えはどうかと思います。

第4次産業革命：<https://www.mlit.go.jp/common/001207983.pdf>

(9) 主題6について、「気候変動に適応した防災・減災都市づくり」を「地震災害や気候変動に適応した防災・減災都市づくり」とするほうがよいのではないのでしょうか。

(10) 「VI-1」について、国土交通省で「復興事前準備」が示されているので、そちらも反映したものにすることが良いと思います。

復興事前準備：

https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_bosai/toshi_tobou_fr_000046.html

(11) 「VI-3」について、「地域別避難計画」ではなく「地区別防災計画」かと思っています。

(12) 「市民意向の把握」について、計画策定時だけではなく、計画進行時においても市民意向の把握や、市民とのコミュニケーションを実施したほうが良いと思います。特に中高生に向けて継続的な取り組みを行ってはどうか。

2. 「鈴鹿市都市マスタープラン改定業務 市民意向把握進捗状況について」

(1) 学生との意見交換について、各校では総合計画の取り組みと合わさっていたので、都市計画に関連する部分を抽出しまとめた上で、その点についての意見を各校と再度コミュニケーションをとってはどうか。

(2) 子育て世代との意見交換会について、市外から転入された方を中心にした話であったが、災害時の浸水予想を非常に参考にされていることがあった。この点は、今後の居住地としての土地利用の方向性を考えるときに示唆になります。長期的な災害リスクとの兼ね合いの検討が必要です。

また、CCRCのような考えについて話されている方もいらっしゃったので、主題1と主

題2での検討事項と考えます。

(3) 第1回市民ワークショップを傍聴しましたが、参加された方の中、女性の方が行政の方と意見交換をできたり、他の方の意見を聴くことができ、非常に良かったと感想を述べられていました。

令和5年度の実施で、女性を中心とした意見交換の場を持つてはどうかと考えます。

(4) 鈴鹿市役所庁内での意見交換はどうなっているのでしょうか。40代以下の職員の方々に自分ごととして考え取り組んでもらう機会を増やしてはどうかと考えます。

3. 「2-1 現行鈴鹿市都市マスタープランの総括」について

(1) 記載されている各施策・取り組みに関して、「未実施」、「継続は未定」と記述されているものが見られますが、どのような理由や背景での判断だったのかがわかる記載があったほうが良いと考えます。

4. 「都市づくりの主な問題点」について

(1) 「1 人口減少・少子高齢化の進展」の部分で、市商工会議所からの30万都市に向けての意見書が出ていることなども、社会全体としての人口減少との関係で検討を要するなどの表現があったほうがよいのではないのでしょうか。

5. 「2-4 現行都市マスタープランの課題抽出・整理」について

(1) 「テーマ1-(1)-①」について、白子、平田町、鈴鹿市駅周辺の実施についてコンパクト&ネットワークを考えると、「交流拠点」という表現・考え方があってよいと思います。

(2) 「テーマ2-(1)-①」について、「津波」だけでなく「高潮や海面上昇の影響」について課題に入れるべきと考えます。

(3) 「テーマ3-(1)-①」の立地誘導に対する課題の部分において、「行政内での公共施設、サービスの複合化を横断的に検討する体制が必要」という文言があったほうが良いのではないのでしょうか。→3-(2)-③も同様

(4) 「テーマ4－(3)－⑦」について、EVを想定するのであれば、都市内におけるバランスの良い充電設備の配置が入ると思いますがどうでしょうか。

(5) 「テーマ5－(1)－①」について、「海水浴場の整備」という部分について、市地域資源活用課や市観光協協会とコミュニケーションはとっているのでしょうか。

措 置
ご意見を踏まえ、検討を行い、都市計画の基本的な方針に関してまとめられた部分を改定していきたいと考えています。